

第4回北上市政策評価委員会会議録（要旨）

【出資法人等協働評価専門部会】

日 時	平成23年10月6日（木）午後1時～5時15分
場 所	北上市役所本庁舎 2階庁議室
出席者	(1)委員 5名 山田晴義部会長、青木一郎委員、小野寺純治委員、宗和暢之委員、谷藤邦基委員 (2)副市長及び事務局 (3)担当部課職員
傍聴者	1名

1 議題

- (1) 各委員による評価内容の総括（意見交換）
- (2) 評価内容の項目別検討

	対象案件
1	情報格差の解消・情報通信技術の活用 和賀有線テレビ（株）、北上ケーブルテレビ（株）
2	黒沢尻西部土地区画整理事業について 黒沢尻西部土地区画整理組合
3	夏油高原スキー場の運営について 夏油高原開発（株）
4	市街地再開発事業 北上都心開発（株）
5	市街地再開発事業 北上開発ビル管理（株）

2 会議の概要及び主な意見等

各委員から提出された外部評価シートを集約し、評価内容の確認を行った。

黒沢尻西部土地区画整理組合、夏油高原スキー場、北上都心開発については、総括の意見交換と項目別に評価内容を検討し、委員会として評価シートのとりまとめを行った。また、ケーブルテレビ2社と北上開発ビル管理については、総括の意見交換のみを行った。

(1) 情報格差の解消・情報通信技術の活用：和賀有線テレビ（株）及び北上ケーブルテレビ（株）

【主な意見等】

- ・「市民意識、ニーズ」については、我々が直接把握しているわけではないフィルターのかかったものなので、外部評価の項目としては適切ではないのではないか。

・ケーブルテレビが第三セクターである以上は、公益性というところと純民間性の問題がある。デジタルディバイドをこのケーブルテレビでやっていくのかどうか判断することによって、そこに公益性が出てくるのであれば市の責任として市民の理解を得て投資していくべき。民間資本としてそこに期待しているだけでは、おそらく根本的な解決にならない。

・投入する公的な資金に対してどれだけの効果があるのか、負担と受益・効果の見合いで市民の理解が得られるのかどうかが一番のポイント。両社が一定の公益的役割を果たしているのは認められるが、効果に対して投入する資金が率直に言って多すぎる。過大な市の負担となっているのではないか。

・論点をもう少しくっかにしぼったほうがいいのではないか。公益性が本当にあるのかどうか市が関わるべきなのかという問題、市が関わるのであればいまの関わり方でいいのかという問題と、合併をどう考えるのかということと、それぞれの経営改善策くらいに論点は分かれるのではないか。

・市の計画上は、ケーブルテレビ等を活用してデジタルディバイドをやっていくと明確になっている、と理解している。であればそれなりの新たな公共インフラとしての役割をしっかりと考えるべきではないか。それ以外の代替措置があるのであれば、ケーブルテレビの公共性はなくなる。

・同じサービスを提供しようと思えばないかもしれないが、今のケーブルテレビのやり方と他のやり方で、地域住民の満足度が違うのかによって代替性があるかどうかは変わってくる。代替性も検討の余地があるように思う。

・本当はもう少し踏み込んで現地の人に話を聞いてみないとわからない。基盤は整備されたけど、うちはインターネットなんて必要ないよと言う人もいるかもしれない。行政情報の提供は基本的に紙ベースの広報で十分で、それ以上金を掛ける必要はないのではないか。

・市の活用方針については、それほど前提にしなくてもいいのではないかと思う。外部委員は、いろんな前提や足かせを置く必要はないのではないか。

(2) 黒沢尻西部土地区画整理事業について：黒沢尻西部土地区画整理組合

【主な意見等】

・この組合というのはただ単に関係者が集まって、市の事業を行うためにのみ作られてしまった傀儡的な法人と考えざるを得ない。当時はやむをえなかったと思うが、今後開発する場合は、地権者・市民の協働する体制が求められる。

・運営の計画性の観点では、諸々の反省点はきちんとまとめておいて、できるだけ広く共有しておいた方が後々のためになる。犯人探しという観点ではなくて、現実の問題として、こういう状況があってこういった問題点があったということさらけだして検証していただいた方がいい。

(3) 夏油高原スキー場の運営について：夏油高原開発（株）

【主な意見等】

・一定の公益性を委員は認めているが、その割には内部評価シートに公益性についての説得的な説明は少なかった。例えば、地域の活性化に役立っているとか、観光産業に資源として活用しているという部分は、単なるスキー場としてしか書かれていない。

・市として、親会社の加森観光さんの意向がわからないからから対応しなくてもいいという問題ではない。加森観光さんがこうできたらこうしよう、とか、加森観光さんにはこういうふうに市のビジョンを伝えようというのが、本当は用意されていなければいけないと思うけれど、そういうものがない。そういう市の戦略が練られてないといけない。

・法人運営で評価するのは公益性ぐらい。財政上というのはあるのかもしれないが、市と夏油高原開発との間で評価するとすれば、ここをどのように評価するから、今後市としてどのように支援をしていくのか、というのが出てくる。

・法人としては民間企業で、独自に経営してもらったらいいい。市はその企業を使って、地域の活性化なり、公共的なサービスを提供しようとしているので、そこで評価しなくてはいけない部分もあると思う。もう一步言えば、仮に法人が撤退したとした場合に、じゃあ市は、いま提供している公共性を維持するのかどうか、ということも考える必要性がある。

・雇用とか、産業の発展性、波及性がある、そのことを長期的に考えるのは容易なことではないが、ただそう言っていて考えないと何も進展していかない。長期的視点を大切に、いろんな方向性を考えることが大事だと思う。

・純民間会社であるということで、なかなか会社自身が市民に対してPRするのは難しい。一方ではかなりの公共性があるということで、これから場合によっては税金投入ということも考えなければいけない。より積極的に、時期を捉えて早め早めに市民のご理解をいただくような、PR施策を講じてほしい。

・今回ある程度、基本的なスタンスは見えてきた。タスクフォースを作って具体的な施策はまだこれから検討すると。第3セクターとして出資をせずにタスクフォースを作っていくという、新たな協働のあり方として期待をしたい。

(4) 市街地再開発事業：北上都心開発（株）

【主な意見等】

・中心市街地の活性化、TMOのところ機能ができていないので、それを機能できるように何らかのコンフル的な取り組みが必要ではないか。こういうタウンマネジメントの場合には賑わいを作るということで、賑わいは周辺から集めるしか

ない、まさに都市間競争の一端になってくるわけで、そこをどう戦略的にこの会社を使って市として作っていくかということ、一緒になって考えるポイントになってくると思う。

・法人そのものに関しては、これまでの経営とか取組状況に対して評価しなければいけないし、環境変化への対応というのは法人としても考えていくのが当然だと思う。制度が変わったとしても、それは含めて検討していかなければいけない。そういう状況の中で中心拠点が必要な機能を展開していくためには、全市的な視点で再構築と、役割のあり方と運営の仕方に対して、市としても積極的に考えて取り組む必要があると、そういったスタンスで評価していくのでいいと思う。

・駅前ビルとこちらは基本的に位置づけが違う。あちらは玄関口を何とかしなくてはならないということで作っただけで、こちらはもっと戦略的に中心市街地の活性化ということで作ってきたと思う。それがTMOとして動けなくなってしまっているという状況をどう打開していくか、法人だけでは当然無理なので、市としての施策も含めてしっかりした議論をしていかないと変わっていかない。でも市としてもそれを変えていくためには、我々のようなところが少しでも石を投げる役割をしないと、なかなか動きにくい部分もあるだろうと思う。

・設立当初からの役員を交代できないというところが、根本的に会社組織としては問題。そこを交代できるような仕組みを会社だけではなく市も含めてしっかり考えていかなければいけない。

・人の流れをもう一度把握し直す必要があると思う。駅前ビルや江釣子ショッピングセンターを含めて、さらに北上病院が移転統合したことも影響があるはずなので、そういったことをトータルにもう一度やり直さないとまちづくりの方向性は見えてこないのではないかな。

(5) 市街地再開発事業：北上開発ビル管理（株）

【主な意見等】

・外郭団体としてどう扱うかということに絞って考えると、市がこれ以上負担しないように、整理ができるのであれば整理の方向で検討した方が良いのではないかな。それと駅前をどうしようというのは違う問題で、それはそれで一から考えた方が良い。

・三セクである必要はないのではないかな。民間会社としてやれるならやっていけばいい。

・建物は20年ぐらい持ちそうだという話なので、15年から20年かけてなんとかするというソフトランディングの方法を考えるか、あるいはここで一旦整理して純粋に民間会社としてビルの活用を考えるのか、色々な選択肢はでてくると思う。いずれにせよ、いまのまま生涯学習センターを入れてやっていくのはあまりいい

方法ではない。

- ・そこにある必要性や値段は別にして、駅前に生涯学習センターがあるということは、一定の評価をしてもいいのではないか。
- ・インターネットで調べた限りでは、貸会議室はいっぱいあるが、利用状況がさほどいいようには見えない。
- ・駅前だから見栄えがいいものがないといけないという理由と、駅前を中心とする賑わいのための中核施設を作りましたというが、北上都心開発と違ってその方向性が全く見えていない。そういう面では役割は終わってしまったのかなと言わざるを得ない。
- ・市民への説明としても、公的な開発でもあったということから、あとの活用をどうしていくかということも一定の責任はある。
- ・駅前に生涯学習センターがあることについて、使っている人は便利だと言うかもしれないけれど、納税者として見た時に相当の金額が使われているのかということで、市民の理解が得られているかはわからない。結果的にさらに地価が下がっていきというときに損失を膨らますことになるのであれば、そういうことまで理解されているかどうかと言えれば疑問なのでは。
- ・第三セクターだとしても独立した法人なわけで、市として関与の在り方がいいのかどうか、課題を指摘することが大事だと思う。たとえば出資をもう引き揚げるべきだとなっても、それで会社がどうなるかどうかは、次の、会社自身の考え方なので、あくまでも市の役割の範囲に限定すべきではないか。